

主題聖句: 詩編 90:3-6 「なんぢ人を塵にかへらして宣はく 人の子よなんぢら歸れと なんぢの目前には千年もすでにすぎる昨日のごとく また夜間のひとときにおなじ なんぢこれらを大水のごとく流去らしめたまふ かれらは一夜の寝のごとく朝にはえいつる青草のごとし 朝にはえいでてさかえ夕にははかられて枯るなり」(『文語訳聖書』本文中は『聖書協会共同訳』)。

### <序>

2020年10月30日現地午前11時50分頃、マグニチュード6.9の地震がトルコ国イズミルとギリシア国サモス島を襲いました(使徒 20:15)。津波も被害を増しました。トルコ側117人、サモス島で2人が死亡しました。かつてイズミルは西暦1世紀当時、スミルナ、エフェソスと呼ばれていました。エフェソスはアジアとヨーロッパの交易、通商、行き交う港湾都市でした<sup>1</sup>。

昔からたいせつな人をなくすことは大きなストレスです<sup>2</sup>。コロナ禍のため、長期入院が可能かどうかと言うと、日本の医療体制は非常に脆弱と言わざるを得ません。2000年代前半に始まった日本独自の「診療報酬制度」により、医師、看護師不足と医療体制の脆弱化の問題が深刻になっています。「3ヵ月超えたら病院を追い出される」という、風聞が広がっています<sup>3</sup>。人間の健康、治療、福祉について、一つひとつの医療行為を点数化して判断するのです。いわば、診察の際、聴診器をあてて患者と向きあふことより、コンピュータ画面に現れるデータで病状を判断します。小学校の成績判断、受験の偏差値、企業の業績など、なにもかもに「数字信仰」の呪縛がはびこっています。医療現場でも、対価(=金額)に換算する繁雑な事務作業が増えています。現行制度では、入院費用を取れないので早々に退院させます。すると、公的病院の収入はがたがたと減ってしまいます。病院だけでなく、大学も教授たちは専門の研究より、学生を数字で管理し、文科省からの複雑な事務作業の要求や、統治エネルギーに追われています。技術主義の父ルネ・デカルト[1596-1650]の影響が日本の明治維新以降の能率・合理化を推進する思惟の遺伝子を継承させていると筆者は思います<sup>4</sup>。

コロナウイルス医療対策でも後手にまわっているのではないのでしょうか。

トルコは、日本や欧米など多くの国と同じように、訪問中の11月25日に、無症状でも陽性が確認された人を含む「感染者数」の発表に踏み切りました。その結果、2万8351人の感染者数です<sup>5</sup>。ヨーロッパでは首位、世界第3位ということになります。25日に発表された1日あたりの死者数は168人と過去最多です。累計1万2840人となりました。学校は全学年で再びオンライン授業になり、レストランはテイクアウトとデリバリーのみ営業可でした。映画館やサッカー場は閉鎖でした。

<sup>1</sup> 穀物・香水・香油・琥珀などの宝石・香料・香辛料・絹や、珍しい動物が中央アフリカ、インド、バルト海沿岸諸国から輸入され、ローマへの船に積み荷する最も重要な中継センター。『新しい新約聖書概説』上 ―ヘレニズム時代の歴史・文化・宗教― (ヘルムート・ケスター 井上大衛訳 新地書房 1998年 430頁)。

<sup>2</sup> 「ストレスマグニチュード(蓄積度)」(神戸市精神保健福祉センター 2012年)。

<sup>3</sup> 「ホスピス・緩和ケア、在宅ケアの日常から: 答えのない問いにどう向きあうのか」(中井珠恵 阪神宗教者の会 2020年11月1頁)。

<sup>4</sup> 『キリスト教哲学序論―超越論的理性批判―』(春名純人 教文館 2018年 62頁)。春名は、「自然は計算され得るもの、そして操作され得るもの」とデカルト西洋哲学の与えた影響を分析。拙論『不便さの中にいのち』(『中外日報』2020年11月13日付)。

<sup>5</sup> トルコ 新型コロナ感染者数 陽性確認で統計に改め 感染者急増 『NHK』(2020年11月26日10時38分)。

## 目次

### 第1部

(1) トルコの地震, 津波	
a. トルコとは	3
b. なぜトルコに	3
c. 孤児への関心	3
(2) イスラーム教圏	
a. 危険性はなかったのか	4
b. 出国	4
c. トルコ着	5
(3) 孤児たちに寄り添う	
a. 避難所訪問	5
b. ソイヤー イズミル総合市長表敬訪問	6
c. 孤児たちとの出会い	7

### 第2部

(1) イズミルとはどんな所	
a. エフェソスとは	9
b. ディアスポラとは	9
c. エルサレムの壊滅一世の終わり	10
(2) 二項対立から聖書の原典へ	
a. 原始キリスト教団の基準	11
b. アジアこそ原始キリストコミュニティ	11
c. 異端を排除してきたキリスト教界	12
(3) 中東のキリスト教	
a. 2000年間のアラブ・オーソドックス	15
b. エキュメニカルからエキュメニスティへ	15
c. 経典の民の「共生」	16

## 第一部

### <報告>

#### (1) トルコの地震、津波

##### a. トルコとは

トルコはイスラーム教圏です。10月30日に地震の速報が入りました。イズミルでマグニチュード7.0という内容で、死者24人、負傷者804人というBBCの報道です。日本と同じ地震大国です。コロナ禍のため、国際便がトルコにまで日本から行けるかどうか、また帰って来られるかどうかも確かな情報がありませんでした。オスマン帝国(現トルコ)の軍艦が和歌山県串本町沖に沈没した「エルトゥールル号遭難事故」(1890年)の際、日本側が救助した69人は神戸・和田岬の病院で治療を受け、神戸から帰国。その恩返しなのか、イラン・イラク戦争(1985年)でテヘランに足止めされた200人以上の日本人をトルコ航空が救い出したことなど神戸市とは縁が深い国です<sup>6</sup>。

##### b. なぜトルコに

がれきの下敷きになった孤児、親のいない子どもたちのうめき声が聞こえてきます。実子がいなかった筆者夫婦にとり、養子を預かり育てました。しかし、実母の愛情がはるかにまさり、行状においても父親らしいことは何もしてあげられませんでした。家庭を顧みない最低の夫、父親でした。養子が実母の元に帰ったとき、「四苦八苦 生老病死 愛別離苦」の「愛別離苦」の苦悩で心の空洞の寂寥感を代替する慰めはありませんでした。妻カヨ子は半年間、半狂乱でした。国民宿舎など近くの安価な温泉へ二人で出かけたものです。自然のうつろいの景色、出会う人々の人情、料理をいただいても埋め合わせることはできませんでした。かつて親子3人で過ごした日々は、私たちの人生の中で、黄金時代でした。カヨ子に、「人生の中でいつが一番楽しかったか」と尋ねると、「そうだね。たくさんあるけれど、……、3人でペンシルベニア州ピッツバーグの会衆で過ごした、あの時だね」とハッキリと声にしました。意外でした。異端と言われているエホバの証人時代の伝道に明け暮れ、身体的に限界だった時期だったからです。戸別訪問の枷から解放されていたこともあったでしょう。指導者の妻として、精いっぱい、筆者を支えてくれていました。なによりも3人での訪米は彼女にとり、神さまからの最高のごほうびだったのだと思います。

##### c. 孤児への関心

私たち夫婦にとり、同じくらいの年齢の子どもが運動会、バザーの演技、勉学に励んでいる姿を見ると、穏やかな気持ちになることに気づきました。神戸市灘駅南側にある「ウリハッキョ」(朝鮮語「私たちの学校」の意)の行事には教会のメンバーたちと欠かさず、参加するようになりました。朝鮮学校の児童生徒がわが子のように思えました。宮城県石巻市の孤児、2015年にはバヌアツ、ネパールでの災害地における子どもたちの叫び声にカヨ子の感性は敏感でした。国内の被災地だけでなく、海外にいても、家でカヨ子は無事にはたらきに仕えるように真剣に祈っていることが外国でも伝わってきていました。国境を渡河して、孤児の養護施設を造りに、海外で子どもを世話する良き人たちと不思議に出会うようになりました。

<sup>6</sup> 『神戸新聞』(2019年12月20日付)。

## (2) イスラーム教圏

### a. 危険性はなかったのか

トルコはイスラーム教圏です。私たちはシリアなどの「イスラム国」(ISIL アイシル Islamic State in Iraq and the Levant)テロによる洪水のような報道に数年さらされました。「イスラームは怖い」というイメージを日本人は一般に持っています。ましてや、コロナの第三次感染者数増大の中、海外に行くことすらできないと思っている方が多いです。おまけに、筆者がキリスト教会の牧師ですから、一般の日本人はイスラーム教と敵対関係だと思い込んでいます。同じキリスト教会の牧師たちは、トルコ訪問と聞くやいなや無謀という反応でした。

### b. 出国

関西から成田空港行きはありませんでした。ドーハや、イスタンブールの航空会社などに直接、予約。成田空港からの海外便は稼働しているのか不明でした。成田に羽田空港から電車で向かったものの、車中、海外旅行者らしき姿はありません。運航しているかどうかぶっつけ本番でした。空港は免税品店、搭乗カウンターもゴースタウンのようにひっそりしています。人を見かけません。



成田第2ターミナル国際便 2020年11月22日



成田空港 免税店 2020年11月22日

2019年9月9日、第4次インドネシア訪問の際、台風15号の影響で成田は飛行機発着が遅れて、雑魚寝の海外旅行者で歩くことができないほどでした。今回は、予定時刻になっても、本当に離陸するのか、どなたもわからないという状況でした。カタール航空だけが運航し、平常は、飛行機1機に300人乗るのが50人でした。カタール航空から提供されたフェイスシールドも装着を指示されます。



### c. トルコ着

地中海が窓から見え、イスタンブール着です。税関の外国人ラインも一人だけでした。国内線のペガサス航空に7回目の乗り換えです。イズミル空港で手続きを終え、胸をなで下ろしました。欧州、アジアの交差する国際都市には中国、韓国人のスーツ姿のビジネスマンを必ず、見かけます。

今回ばかりは、トルコ人ばかりです。英語がなかなか通じないのには閉口しました。まるで他の星雲に降り立ったかのようです。空港からダウンタウンまで45分かかります。車窓から見るイズミル市街地はレバノンのベイルートより、近代的な広い道路、高層ビルが建ち並び、トルコ第3番目らしい大都会に圧倒されます。1923年に建国したトルコは、中東の大国へ躍進していました<sup>7</sup>。

ボランティア訪問ですから、高級ホテル、ご馳走、快適さとは無縁です。平素なら貧しいスラム街に真っ先に向かい、寝袋で過ごします。しかし、今回だけは、被災現場に近い安価なアパートに直接神戸から予約していました。自炊になります。部屋に手作りマスクなどの荷物を置くと、すぐに被災現場バイラクリに行きました。



バイラクリ Bayrakli 2020年11月23日

近代において人間がどんなに快適な生活を追い求めても、無力であることに気づかされる断面です。輸送、通信、土木技術の最高潮への進歩は、おおきなツケを払わされることを学び取る謙遜さが求められます。  
バイラクリ 2020年11月23日

高層ビルが倒壊しており、危険とトルコ語で表示されていました。近づかないように警備員が見張っていました。

### (3) 孤児たちに寄り添う

#### a. 避難所訪問

11月24日朝、朝食にパン、ヨーグルト、トマト、オリーブと、紅茶を胃袋に放り込んで、出発です。

45分ほど歩いて、地震で住居を失った人々の避難所に行きます。孤児がいないかどうか、尋ねます。



アシック ヴェイセル避難所  
2020年11月24日

<sup>7</sup> 『トルコ現代史』(今井宏平 中公新書 2017年 2-4頁)。トルコはG20構成国のひとつ。2015年にはG20の議長国を務めている。





避難所で霊的ケアをするイスラーム教の聖職者 2020年11月24日

家、家族、職場を失った人々の心についてケアするのは、専門家ではなく、もっぱら宗教者に委ねられていました。キュア(治療)は医師が避難所に常駐しています。



地震による避難所です。幼い子どもには、どんな逆境も楽しい場所になります。しかし、食べ物がなくなると、子どももひもじさを乗り越えるためにどんな手段をとりまます。大人の責任は大きいです。



子どもたちは逆境の中でも、明るく、はじめて見る日本人を歓迎します。日本からの手作りマスク支縁を喜びます。

## b. ソイヤー イズミル総合市長表敬訪問

孤児たちのために、養護施設を建造することが訪問の第一目的です。トルコのイズミル市の状況についてソイヤー総合市長に神戸から連絡をとりました。目的、日程、神戸国際支縁機構の沿革を申しあげて、面談を打診しました。トルコ語ができないので、英語です。

さいわいに、井戸敏三兵庫県知事、久元喜造神戸市長も親書を託してくださいました。

報道機関各社が日本からのボランティア団体が来るということで、待ち構えていました。本来なら、ネクタイ、背広、磨いた靴で登庁すべきところを神戸国際支縁機構が世界各地に孤児の家を造っていることで、無礼講が許されました。

ソイヤー市長から被害の詳細を聞き、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震からの復興について、教育の大切について約1時間対談することができました。



### c. 孤児たちとの出会い



エレッフさん(4歳)は  
いつまでも手を放して  
くれません。父親が恋し  
いのでしょう。

2020年11月24日

11月3日からはじめた募金活動。イズミルに建造する孤児の施設に、100万円必要です。全国のみなさんからの協力を求めます。教育費として、ひとりに月3千円を応援くださる里親を5人募集します。

孤児である兄弟との出会いは、第2次トルコ災害ボランティアの足がかりになりました。

帰途は、当初、マニラ経由でしたけれど、ドーハからの電話で、ドーハから成田空港に直接飛行することの連絡が入りました。そのため、空港へ4時間早く行かざるを得ませんでした。そのためイズミルでお土産を買う時間もなくなりました。ペガサス航空をキャンセルし、トルコ航空



孤児メメット・カブダー(18歳)は、13歳の弟メリイ(13歳)と二人暮らし。 2020年11月24日

の空席を入手、イスタンブールに飛行し、4時間をつぶして、ドーハでトランジット。長時間待たせたことなどで、特別会員用のラウンジに入れてもらい、軽食もいただきました。11月26日夕方、成田空港に夕方到着したものの、検疫所の検査に乗客全員が5~6時間要しました。寝袋があったおかげでどこでも休めることも益になりました。ハイエースで迎えに来てもらえたことも感謝でした。入国、帰国も不可能だと思っていたのがウソのように円滑であったことを神様に感謝しました。



## 第2部

### (1) イズミルとはどんな所

#### a. エフェソスとは

エフェソスは紀元前 11 世紀にイオニア人の植民都市であったのが、紀元前 546 年にキュロス 2 世によってメディア・ペルシア帝国の配下になりました。紀元前 334 年には、アレクサンドロス[アレキサンダー]大王[紀元前 356-323]は哲学者アリストテレス[紀元前 384-322]に教育を受けました。彼は、ペルシアのダレイオス 3 世を破り、ギリシア帝国を築きました。続いて、エフェソスはローマ軍に占領され、紀元前 133 年、ローマ帝国アジア洲の首都になり、小アジア最大の商業都市として繁栄しました。<sup>8</sup>エフェソス市を流れるカユストロス川は、熊本県球磨川や川辺川のように、河床に堆積する土砂を絶えず、掘削することが求められていました<sup>9</sup>。

市にあったアルテミス神殿は当時紀元前 4 世紀に再建されたもので、高さ 18 メートルのイオニア式の円柱が 127 本ありました<sup>10</sup>。世界七不思議のひとつでした。15 メートルの高さのアルテミス像は多産のシンボルとして、多くの乳房を持っています。今日でもお土産店でミニチュアが売られています。

パウロはユダヤ人でしたが、ローマの市民権を西暦 44 年に取得しています。ユダヤ人のマルコス・アントニオスとポプリオス・ドラベラスディアスポ<sup>2</sup> 名の執政官がユダヤ人元老院を招集して、ローマ人の市民権、兵役の義務免除をローマ皇帝アウグストスに申請し、承認されました<sup>11</sup>。

エフェソスは西暦 52 年 8 月～55 年 10 月にわたるおよそ 3 年間、パウロの宣教の拠点となりました(使徒 20:31)。

#### b. ディアスポラとは

北イスラエル王国はアッシリア帝国のサルゴン 2 世によって紀元前 722 年に滅ぼされた後、離散しました(列王下 17:6)<sup>12</sup>。離散したユダヤ人たちは ディアスポラ **διασπορά** と言われています<sup>13</sup>。パレスチナ以外の地に散らされたのです。北イスラエル出身のユダヤ人の大半はギリシア語圏内の会堂を中心に、独自のアルコン(執政官)と元老院を持ち、完全な内政の自治を与えられていたユダヤ人コミュニティを築いていました。エジプト、小アジア(主にトルコ)、メソポタミアに 100 万人ずつが散在していました。(ヨハネ 7:35, ヤコブ 1:1, I ペトロ 1:1)<sup>14</sup>。ユダヤ民族は、すでにあらゆるポリスに進出しており、紀元前 86-87 年当時には、ユダヤ人がいない所を発見するのは困難であったとヨセフスは記録しています<sup>15</sup>。トルコにあったカパドキア、ポントス、フリギア、パンフィリアの新しい地で 700 年以上生活しています。ですからヘブライ語の聞く、話すというコミュニケーションができなくなっています。同じユダヤ人であっても、ヘブライ語を話すユダヤ人「ヘブライオイ」、

8 『新カトリック大事典 I』(新カトリック大事典編纂委員会 研究社 1996 年 823 頁)。

9 『使徒行伝』(F. F. ブルース 1993 年 408 頁)。

10 『Atlas of the Bible』(ジェイムズ・B・ブリチャード 新教出版社 1993 年 175 頁)。

11 『ユダヤ古代誌』4 (フラウィウス・ヨセフス 筑摩書房 2000 年 313-318 頁)。

12 “*Geschichte Israels*” Martin Noth Vandenhoeck & Ruprecht Göttingen 1950; 『イスラエル史』(M. ノート 樋口進訳 日本基督教団出版局 1983 年 330 頁)。“*Light from the Ancient Past*” The Archeological Background of the Hebrew Christian Religion Vol.1 Jack Finegan Princeton University Press 1951 p.208-210; 『古代文化の光』—ユダヤ教とキリスト教の考古学的背景』(ジャック・フィネガン 三笠宮崇仁訳 岩波書店 1961 年 220-221 頁)。

13 **διασπίρω** ディアスベイロー 動詞「散らす」(使徒 8:1, 4; 11:19) *Das Selbstverständnis der jüdischen Diaspora* Leiden Brill 1993 p.73-88。

14 『初代教会史』(H. R. ボーア 塩野靖男訳 教文館 1987 年)。

15 『ユダヤ古代誌』4 (同 283-284 頁)。

ギリシア語を話すユダヤ人「ヘレニスタイ」がいます。みんなが幼い時からトーラに蜜をぬって、親しみ、13歳のミツバでは旧約の巻物が読めるとは限りませんでした(使徒 6:1)。キリストが処刑され、復活したと言われている日から「50日目」の「五旬節(5じゅんせつ) ペンテコステ」にも、ディアスポラのユダヤ人たちはエルサレムの神殿に集まってきていました(使徒 2:9-10)。

### c. エルサレムの壊滅—世の終わり

西暦 30 年頃にイエス・キリストがエルサレムで処刑されました。それから約 40 年間は、エルサレムを中心にナザレのキリスト派はユダヤ人たちとの対立がありました。イエスが最も心を寄せたオクロス(民)は、生産に従事しえない者、病気の者、知的身体的に障がいを持つ者、故郷を追われた放浪者たち。つまり「棄てられた者」、物乞いして歩くしかないアウトカーストでした。したがって、ユダヤ教の宗教指導者、既得権を持っているユダヤ人コミュニティ、律法学者たちからは鼻つまみ者として扱われました。エルサレムの会衆の最初の監督ヤコブは証言しています。「私の愛するきょうだいたち、よく聞きなさい。神は、世の貧しい人を選んで信仰に富ませ、ご自分を愛する者に約束された御国を、受け継ぐ者となさったではありませんか」の「世の貧しい人を選んで」と書かれている通りです(ヤコブ 2:5)。釜ヶ崎で解放の神学を唱える本田哲郎は「貧しい人を信仰に富む者にした」のではないのであり、「その人たちはイコール神の国を受け継ぐにふさわしい者」だといっている、とギリシア語原典から説いています<sup>16</sup>。「憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら—読者は悟れ—、そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい」とキリストは啓示を与えていました(マタイ 24:15,16, ダニエル 9:26,27)<sup>17</sup>。西暦 66 年に、シリア総督ケスティウス・ガルスはエルサレムを包囲しました。だが陥落を目前にしながら撤退したのです。理由はいまだに不明です。イエスのメッセージを心に留めていたキリストの道の者たちはエルサレムから山づたいに小アジア方面に逃げました<sup>18</sup>。『死海文書』翻訳委員会は、西暦 68 年、ローマ軍の攻撃の前にクラン教団の施設は壊滅し、他方、30 年前後に成立したキリスト教の指導的立場にあったエルサレム教会は、ローマ軍による攻撃の直前、エルサレムからヨルダン川東岸のペラに移動したことについて言及しています<sup>19</sup>。ユダヤ人で殺された者は約 110 万人、奴隷として 9 万 7,000 人は売られます(申命記 28:68)<sup>20</sup>。

回心する前パウロは最初の殉教者であるステファノを「殺す人」(ホモ・ネカーンス)でした<sup>21</sup>。パウロが最も活躍したエフェソス、スミルナ、現在はイズミルで 1 カ月前に地震が起きました。かつてオスマン・トルコ帝国だったトルコは、中東イスラーム世界の中心になっており、目が離せません<sup>22</sup>。

<sup>16</sup> 『釜ヶ崎と福音』—神は貧しく小さくされた者と共に—(本田哲郎 岩波書店 2009 年 96-97 頁)。

<sup>17</sup> 「荒廃をもたらす憎むべきもの」と見なされる 200 数十年前の人物アンティオコス・エピファネスや西暦 66 年フロルスが神殿において不敬虔な行為をしました。「荒廃をもたらす憎むべきもの」ヘブライ語 מְשֻׁמְמִים שְׂחָצִים *shqutz mshumm* シヒツツ メシヨムム ダニエル 11:31,12:11, ギリシア語 βδέλυγμα τῆς ἐρημώσεως *bdelugma tes eremosews* ブデルグマ テェイス エレイモウセオウス I マカバイ 1:54, マタイ 24:15 *shqutz mshumm bdelugma tes eremosews* ブデルグマ テェイス エレイモウセオウス アンティオコス・エピファネスが神殿で悪事を行いました。フロルスは、「聖なる(神殿の)宝物庫に人を派遣して 17 タラントを、カエサルの御用に立てるとの口実のもとに、取り上げさせた。」『ユダヤ戦記』II III—ヨセフス全集—(フラウィウス・ヨセフス 土岐健治 1985 年 70 頁)。

<sup>18</sup> 『エウセビオス 教会史 1』(秦 剛平訳 山本書店 1986 年 139 頁)。「エルサレムの教会の人々は、[ローマとの]戦争前に、啓示を介してその地の敬虔な人々に与えられたある託宣によって、都を離れペライアのペラという街に住むように命じられた。そこで、キリストを信ずる人びとはエルサレムからそこに移り住んだが、そのために、ユダヤ人の第一の首都とユダヤの全地は、聖なる人々から完全に見捨てられた形になった。』『キリスト教教父著作集 19』:ヒッポリュトス全異端反駁(ヒッポリュトス 大貫隆訳 教文館 2018 年 29.7.30. 2); “*Studies in Rabbinic Judaism and Early Christianity*” Dan Jaffe (ed) Leyden: Brill, 2010 p.107-138, 拙論拙稿『目葉』誌 No.3 (1996 年 6 頁)参照。

<sup>19</sup> 『死海文書 X 知恵文書』(勝村弘也 ぷねうま舎 2019 年 xi-xii 頁)。

<sup>20</sup> 『ユダヤ戦記』II III—ヨセフス全集—(フラウィウス・ヨセフス 土岐健治 1985 年 281 頁)。

<sup>21</sup> 拙論「キリスト教の弔い—現代問われている死生観」(日本「祈りと救いところ」学会 2016 年 10 頁)。

<sup>22</sup> 『これから 50 年、世界はトルコを中心に回る』(佐々木良昭 プレジデント社 2012 年 218-220 頁)。

## (2) 二項対立から聖書の原典へ

### a. 原始キリスト教団の基準

パウロは、同胞のユダヤ人、小アジアのギリシア人、ローマから使わされている総督のローマ人たちからも迫害、白眼視され、決して歓迎されていませんでした。宣教旅行の目的は福音を分かち合うことであり、改宗が目的ではありませんでした。ユダヤ教は、「割礼」が入信のイニシエーション(入信儀式)でした。「『ある人々がユダヤから下って来て、『モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない』と兄弟たちに教えていた」(使徒 15:1)。

一方、キリストと出会った者たちは、「割礼」ではなく、何をイニシエーションにしたのでしょうか。

コンスタンティヌス帝[コンスタンティヌス 1 世 280 頃-337 年]はミラノの勅令(西暦 313 年)でキリストの道を公認しました。392 年に、テオドシウス帝によってローマ帝国の国教とされます。

初代教会は城門の外に住んでいる貧しい人々で構成されていました。エクレーシア(集会 教会のこと)は、城門の中の街や市民の住居とは異なる洞窟にありました。各エクレーシアへの出席者数も 50 名もいませんでした。そこに集った人々は、「割礼」と「洗礼」のどちらを選ぶかは関心事ではありませんでした。「洗礼」が公式の入信儀式となったのは 3, 4 世紀頃です。初代教父たちにより、ミサ、聖餐式などの 7 つの sacrament(秘蹟)のラテン語の典礼が確立されていきます。「割礼」か「洗礼」によって、再び「二つの壁」を隔てた宗教勢力図が地中海沿岸に広がっていきます(エフェソス 2:14)。

イエス・キリストは洗礼を施すことはなさいませんでした。小アジアで第 1 次、第 2 次、第 3 次宣教旅行をしたパウロは、「洗礼」を施すことには関心がありませんでした。福音はキリストの死、葬りとよみがえりが中心テーマだったのです(I コリント 15:1-3)。「死」「葬り」「よみがえり」以外はオプションです。「キリストが私を遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしなものにならないように、言葉の知恵を用いずに告げ知らせるためだからです」(I コリント 1:17)。

本来、洗礼とは、ギリシア語 βαπτίζω バプティヅターです。原意は「身を沈める」、「頭の先から足のつま先まで沈める」であり、「低みから見直しをさせる」ことです。ギリシア語の「洗濯する、洗う」は、λούω ルーオー(使徒 9:37)、「清める」は ἀγνίζω ハグニヅター(ヨハネ 11:55, 使徒 21:24,26)と異なります。したがって、バプテスマ[洗礼]は、決まったフォルマでの潔めの儀式、すなわち洗うではありません。「洗礼」ではなく、「悔い改める」(動詞 μετανοέω メタノエオー+μετά メタ「変化」+νοώ ノオー「考える」、つまり、「視座を変更する」ことが求められています。「否定の論理」です(マルコ 1:15)。メタノエオーは、新約に 33 回。名詞形のメタノイア(同 22 回)をパウロは弁証したのです<sup>23</sup>。

### b. アジアこそ原始キリスト教団の領域

キリスト教の歴史は2千年と言えるでしょうか。聖書に、「キリスト教」(クリスティアニスモス)という言葉はありません。私たちはキリスト教がヨーロッパから出発したという先入主があります。しかし、政治権力と結びついたキリスト教界から迫害された中東のアラブ・オーソドックスこそ連綿とした2千年の歴史があります。21世紀の今日でも、シリア、トルコ、エジプトなど広範囲に存在しています。ギリシア語 οἰκουμένη (オイクーメネイ「人間が居住する世界」の意)から英語 ecumenical [エキュメニカル]という語ができました。エキュメニシティ Ecumenicity はエキュメニカルの名詞形です<sup>24</sup>。

<sup>23</sup> 拙論「キリスト教と死刑」(地球市民の会 神戸市立外国語大学 2009 年 6 頁)。

<sup>24</sup> 「エキュメニシティ」(神戸国際キリスト教会 WEB <http://kicc.sub.jp/ecumenisty/>). エキュメニカルであることの資質、状態を示しています。超教派 Super-denomination もしくは Super-denominationalism であり、相互に告白し合う世界的に結ばれている状態を意味しています。



「人間が居住する世界」とは「全世界」です。オイケーメネイは「オイコス」(ギリシア語「家」の意)から派生しています。地球は神の「家」とも言えます。西暦1世紀の初代教会において、福音は「全世界」(ギリシア語 ὅλη τῆ οἰκουμένη *hole te oikoumene* ホレイ テエイ オイケーメネイ)に宣明されました。「そして、この御国の福音はすべての民族への証として、全世界に宣べ伝えられる。それから終わりが来る」の「全世界」とは、皇帝オクタウィアヌス(アウグストゥス)[紀元前63-西暦41]の「全領土」です(ルカ 2:1)。西暦70年にエルサレム神殿が崩壊し、ユダヤ教の全土(エルサレム、ユダヤ、およびサマリア)にはもはや教会も残っていません(使徒 1:8)。現在のトルコ(カパドキア、ポントス、アジア、フリギア、パンフィリア)や、エジプト、リビア、ローマなどが「全世界」の領域を指します(使徒 2:9,10)。パウロ、フィリポ、テモテたちによって、「世界中に」まで及んだのです(ローマ 10:18, I テモテ 3:16)。ですからパウロは証言しています。「あなたがたにもたらされたこの福音は、世界中(παντι τῷ κόσμῳ παντι το κοσμο Πανティ トオウ コズモウ 「世界、宇宙、被造物の総体」の意)至るところでそうであるように、あなたがたの間でも、神の恵みを聞いて真に理解した日から、実を結んで成長しています」(コロサイ 1:6)と<sup>25</sup>。農夫にたとえられるキリストが四つの土壌に種をまかれたのです(マタイ 13章1-9節、マルコ4章1-9節)。ですからアメリカ生まれのキリスト教ものみの塔協会、末日聖徒イエスキリスト教会や韓国の熱狂的なキリスト教団体のように無理矢理の改宗伝道に聖書的根拠はあるのでしょうか。キリスト、パウロや原始キリスト教団が語った聖書原典を無視していることにならないでしょうか。聖書では、伝道、布教、改宗のための行為より、「収穫」が求められます(ヨハネ 4:35)。福音はすでに「世界の果てにまで及んだ」のです(ローマ 10:18)<sup>26</sup>。「終末論」である「前千年王国説」Premillennialism(前千年王国キリスト再臨説『千年期黎明』)を前にキリストが再臨するという終末論<sup>27</sup>を信奉すると、異教徒は新しい神の国に入ることが赦されないといい選民意識が醸成されます。したがって、異端を排除することになります。十字軍と同様、異端に、攻撃的です。身体的拘束、(精神的)拷問、強制改宗をしても良心に焼きごてをあてられたように呵責を感じません。「謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに耐え忍び」で、パウロが述べる「寛容」こそが、いわば原始キリスト教団がもっていた資質です(エフェソス 4:2)。

### c. 異端を排除してきたキリスト教界

筆者が11月23日に訪問した西トルコのニカイアで、西暦325年エキュメニカル会議が開かれました。当時、ネストリウス[381-451]は、コンスタンティノポリス[現在イスタンブール]総主教でした。431年、「キリスト両性論」dyophysiteとしてネストリウスは「神の母」という称号に反対。キリストには、2つの本質と2つの実体があることには反対していませんでした。にもかかわらず、アレクサンドリアの司教・教会博士<sup>28</sup>キュリロス [376-444]は、エフェソスで行われた第3回総会議でネストリウスを免職、断罪、追放しました<sup>29</sup>。

<sup>25</sup> 文脈の23節は次の通りです。「ですから、あなたがたは揺るぐことなく、しっかりと信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者となったのです」。「天の下のすべての造られたものに」(ギリシア語 πάση κτίσει τῆ ὑπο τὸν οὐρανόν *pase te ktisei te hupo ton ouranon* パセイ クティセイ テエイ ウポ トン ウーラノン)とは、極東、中南米にとどまらず、**全地球的規模であるばかりか、宇宙全体を表わすになります。**

<sup>26</sup> 文脈の10節では「宣べ伝える人がいなければだれが聞くでしょうか」と、と字句拘泥主義者は強調します。伝道こそが神の命令(マタイ 28:19)というわけです。「弟子」をつくるように、キリストは言われましたが、「回心者」をつくるために出て行くようには書かれてはいません。

<sup>27</sup> 1848年に、ブレザレン教会のダービ (John Nelson Darby)は、ファンダメンタリストの源流になる『ダービ訳』聖書に基づいて、「携挙」、エルサレムの前千年王国キリスト再臨説を唱えます。ダービこそ福音派の旗手であり逐語靈感説の先生。一神戸国際キリスト教会のホームページ参照。 <http://kicc.sub.jp>

<sup>28</sup> 教会博士とは、ローマ・カトリック教会が聖なる生活を送り、正統な教え、優れた学識を有した著述家に、正式に付与される称号。1893年になって、アレクサンドリアのキュリロスに、与えられた。『新カトリック大事典Ⅱ』(新カトリック大事典編纂委員会 研究社 1998年 278頁)。彼は、女性哲学者ヒュパティア[370-415]を殺害した過激な宗教指導者でした。

<sup>29</sup> 『キリスト論論争史』(水垣渉、小高毅 日本キリスト教団出版局 2003年 146-168頁)。

ネストリウス派として、アッシリア人、エチオピア人、インド人たちでキリストを神として、また人として受け入れていたオリエンタルの信者たちは、カルケドン信条[451年]を受け入れず、礼拝と聖書教義を今日まで守り続けています。ミュンヘン大学にエキュメニズム研究所を設立したヴォルフハルト・パネンベルク[1928-2014]は、ネストリウス派とアレキサンドリアのキュリロス双方の「キリスト論」について詳述します。アレキサンドリアのキュリロスからネストリウスは「単性論」として排斥されたわけですが、いまだに何が異端かはなはだ不可解です。パネンベルクは註解します。「カルケドン信条の受容を強要する試みは、……キリスト教の最初の大きな教派分裂への機会を開いた。……カルケドン会議に続く信条をめぐる論争の結果、キリスト教帝国の弱体化が起こり、最終的にはほとんど戦いをまじえずにシリア、パレスチナ、エジプトといった単性論の普及した地域がイスラームの手に帰した」と<sup>30</sup>。日本基督教学会理事長であられた水垣渉は、両派の論争を正しく説明できる人はいるだろうか、と筆者にトルコから帰国後に語られました。なぜなら激突している両派の用語が日本語に的確に翻訳できないからだという理由です<sup>31</sup>。

### 非戦の原始キリスト教団から十字軍へ

歴史家ローランド・H・ベイントンは、「新約聖書時代の末から、紀元 170-180 年ごろまでには、軍隊にキリスト教徒がいたという証拠はない」と述べました<sup>32</sup>。

キリストご自身が、「剣をとる者は、剣によって滅びる」と言われました(マタイ 26:52)。

ミサと言う語をはじめて用いたアンブロシウス[334-397]や、西方教会の神学の父と言われるアウグスティヌス[354-430]によって、戦争観が「非戦」renunciation of war [レナンスイエーション・オヴ・ウオー] から「正戦」just war [ジャスト・ウオー]へと 180 度、変貌するのです。西方教会の神学の父と言われるアウグスティヌスは、ドナトゥス主義との論争において、「正しい戦争」があると語ります。さらにグレゴリウス7世[1020-1085]により、で第 1 回十字軍[ホリー・ウオー]の聖戦 *praelia sancta, holy war* がクレルモン公会議で唱道されます<sup>33</sup>。「あなたたちは、東方にいる同胞達に大至急援軍をおくらねばならぬ。ペルシアの住民なるトルコ人が教会を破壊し、神の国を荒らし回っている。あの忌まわしい民族を私たちの土地から根絶やしにしろ！」とウルバヌス2世は宣戦布告をします<sup>34</sup>。十字軍遠征は、ヨーロッパのみならず、中東にも実りない暴力の時代をもたらしました<sup>35</sup>。

11 世紀～13 世紀に、ローマ・カトリック教会は、十字架の旗印をもってイスラーム領域に熾烈を極める侵攻をした歴史があります。塩尻和子東京国際大学特命教授は「十字軍」が何をしたか、

<sup>30</sup> “*Christologie*” Wolfhart Pannenberg Gütersloher Verlagshaus Gerd Mohn Gütersloh 1964; 『キリスト論要綱』(W. パネンベルク 池永倫明訳 1982年 355頁)。

<sup>31</sup> 水垣渉氏は神戸国際支縁機構の設立理事のひとり。『キリスト論論争史』(同上 207-286 頁)。筆者が 1994 年、神戸改革派神学校で組織神学を聴講していた際、校長牧田吉和氏もネストリウスの主張は異端とは言えない、と表明しておられました。

<sup>32</sup> 拙論「キリスト教と非戦—武具を捨てよう—」(OCCカレッジ講義 2015 年 4-6 頁)。『戦争・平和・キリスト者』(R.H.ベイントン 新教出版社 中村妙子訳 1963 年 83 頁)。“*Christian Attitudes toward War and Peace*” Roland H.Bainton Abingdon Press 1960。『聖書と戦争』(ピーター・C.クレイグ 村田充八訳 すぐ書房 2001 年 76-77 頁) “*The Problem of War in the Old Testament*” Peter C. Craigie Eerdmans Publings Co. 1978; 『戦争と聖書の平和』(村田充八 聖恵授産所出版部 1996 年 83 頁) 『神の国 五』(アウグスティヌス 服部英次郎訳 1991 年 57 頁)。

<sup>33</sup> 「十字軍のイデオロギー」(近藤 剛 第 45 回聖書セミナー 2010 年 2 頁)。同講義で、エラスムスの『平和の訴え』(Querela Pacis, 1517):「おおよそいかなる平和も、たとえそれがどんなに正しくないものであろうと、最も正しいとされる戦争よりは良いものなのです」と引用。

<sup>34</sup> 『ウルバヌス 2 世と十字軍』(池谷文夫 山川出版社 2014 年)。

<sup>35</sup> 『平和のコンセプト』(ジョン・マッコリー 東方敬信訳 新教出版社 2008 年 59 頁)。“*The Concept of Peace*” John Macquarrie 1990 『平和』がしばしば現状(status quo)を変えずに、ただ葛藤を鎮めるだけだと理解されるからである」。

投稿しておられます。“十字軍兵士は、ムスリムだけでなく、[アラブ]キリスト教徒やユダヤ教徒まで残虐に殺害したばかりか、それらの遺体を食糧として焼いて食べるという、世界史の中にも類を見ないほどの蛮行を働いたことも見聞きされている”，と<sup>36</sup>。

アメリカの宗教社会学者ロドニー・スターク[1934-]は、十字軍遠征はイスラームがアラブ・オーソドックスを蹂躪していたし、西欧に攻め入ったので正当防衛と論じます。さらに十字軍兵士は純粋な信仰の持ち主と擁護します。著書の中で、「概してムスリムに帰される洗練された文化(さらには「アラブ人の」文化とも言われる文化)は、実際には被支配民の文化、すなわちビザンツで培われたユダヤ的、キリスト教的、ギリシア的な文化、コプト派やネストリウス派のような異端キリスト教徒集団の注目に値する学識、ゾロアスター教徒(マズダク教徒)の知識、そしてヒンドゥー教徒の偉大な数学的成果(インドにおける、初期の大規模なムスリムの征服活動のことを思い起こしてほしい)に他ならなかった」<sup>37</sup>、と徹底してムスリムたちを文明人ではないと非難します。ロドニーの論駁は循環論法です。ムスリムは A の功績を活用。A のおかげで医学、科学、文化は発達したと導きます。A は、キリスト教徒だから。だからムスリムは非文明的である故に、排除の対象になったんだという論法です。ロドニーの大きな過誤は、A は正統ではなく、「異端」と排斥していることです。

イスラームが内包している医学、天文学、数学がむしろ西洋に貢献したことを忘却しています。1993年に、アメリカ合衆国の政治学者サミュエル・P・ハンチントンが発表した『文明の衝突』を温存させる二元論的発想です。彼のような世界観を首肯する限り、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教は共存する時代は遠のくでしょう。キリストによる ἀνακεφαλαίω *anakephalaioo* アナケファライオー(「ひとつにまとめる」の意 エフェソス 1:10)を妨害しています。「平和」の敵であるということです。

過激派テロの「イスラーム国」が欧米や有志連合の国々に「十字軍」と非難し、捕虜を焼き殺したりする場面に世界中の人々は身震いしました。しかし、過去、現在の「クルセード」(十字軍)、イスラーム国のジハード<sup>38</sup>やキリシタン弾圧などの蛮行について、「すでにあったことはこれからもあり すでに行われたことはこれからも行われる。太陽の下、新しいことは何一つない」という歴史認識が求められます(コヘレト 1:9)。「異端」だと西洋の伝統的告白教会は他の宗教イスラーム教、アラブ・オーソドックスや北米の原住民インディアン、インカ帝国の住民を「神に救われていない」と蔑視し、強制改宗に明け暮れたことをキリスト教界は忘れてはいけません。

<sup>36</sup> 塩尻和子 「十字軍はイスラームに何をもたらしたか」(文藝春秋 2016年 155頁)。イエール大学のキリスト教会史家ローランド・H・ベイントンは、十字軍の残虐な行為について、「ソロモンの神殿と柱廊では、人は膝まで、馬の手綱まで、血にひたして進んだと」と記録を記しています。『聖戦の歴史』十字軍遠征から湾岸戦争まで(カレン・アームストロング 塩尻和子・池田美佐子訳 柏書房 2001年 190頁)。“*Holy War*”The Crusades and their Impact on Today’s World Karen Armstrong Anchor Books 1991。『戦争・平和・キリスト者』(R.H.ベイントン 新教出版社 中村妙子訳 1963年 144-145頁)。“*Christian Attitudes toward War and Peace*” Roland H.Bainton Abingdon Press 1960。“*The First Crusade: The Accounts Of Eyewitnesses And Participants*” August C Krey Forgotten Books 2016 p.261。

「イスラーム国」(ISIL アイシル Islamic State in Iraq and the Levant)のアブバクル・バグダーディはカリフと称し、イラクやシリアでテロ活動。2016年5月に公開された演説記録において、ISISの前上級指導者でスポークスマンのAbu Muhammad al-Adnaniは、中東全域のイスラーム教徒に対し、ユダヤ人、「十字軍兵士」、及び地域のどこかにいる「背教者の」スパイに対して立ち上がるよう呼びかけた。この演説で、彼は世界中の信者に「テロを用いよ」、そしてテロ攻撃を実行することによって「十字軍兵士[すなわち西洋人]を罰せよ」と懇願し、「民間人」と呼ばれる者を標的とすることは、我々にとってより好ましく、より効果的である。というのも、民間人はより有害で、より痛みを伴い、[不信心な西欧]に対するより大きな抑止力になるからである」と助言した。

<sup>37</sup> 『十字軍とイスラーム世界』(ロドニー・スターク 櫻井康人訳 2016年 87頁)。“*God’s Battalions: The Case for Crusades*” Rodney Stark HarperOne 2009

<sup>38</sup> 拙稿『9条明舞の会ニュース』No.22 「イスラーム教への誤解」(みんなで考える9条・明舞の会 2015年)。“本来のジハードは、「聖戦」ではなく、内面の葛藤に勝利するという努力が第一義です。”



明治維新の際、アメリカンボードから外国宣教師採用の際、条件がありました。「基督を信ぜざる外国人の靈魂は悉く永遠の刑罰に預かるとの信条を信ずるを必要として居た。……此の教理を信ぜざるものは決して宣教師として推薦せぬと断言して居た」と<sup>39</sup>。

改宗を迫り、仏壇などを焼かないと「洗礼」を受けることができない非寛容なキリスト教と寛容なアラブ・オーソドックスを同列に論じることはできません。後者はイスラーム教など異教徒を排除しませんでした。エキュメニカル運動はキリストを信じる者同士の超教派の活動です。一方、エキュメニスティは、他教徒の礼拝、教義、スピリチュアリティを軽んぜず、「共生」します<sup>40</sup>。

政治と宗教が断絶しないで直接的に関係づけられてしまう危険性の中に、こうした問題の重要性があると、プロテスタント神学者パウル・ティリッヒ[1886-1965]は語ります。「アメリカの状況では、……一つには、平和を求める雰囲気が残っているなら、戦争を繰り返し否定することができるだろう。さもないければ、戦争を引き続いて肯定するかもしれない。これまで、戦争中のプロパガンダによって、十字軍の精神が昂揚されてきた」とキリスト教神学における危険性を指摘しています<sup>41</sup>。

### (3) 中東のキリスト教

#### a. 2000年間のアラブ・オーソドックス

アラブ・オーソドックスはイスラーム圏で、エキュメニスティにより「共生」し続けています。

レバノン出身の神学者ジャン・コルボン神父は語ります。「『アラブの教会』“1’Eglise des Arabs”という言葉であらわし、アラブ人の中で証しする教会、『世界のための教会』、そして単に自己陶酔的(ナルシスティック)でない教会、……政治的選択は個々のキリスト教徒が自由に決定できるものとされている。政治的多元主義は受け入れられるばかりでなく、推奨されている」<sup>42</sup>。残念なことに、欧米のキリスト教界は、アラブ・オーソドックスによるイスラームとの「調和した関係」エキュメニスティについて、障害物とみなしています。アラブ・オーソドックスのアイデンティティを理解できないのです。

ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教は「経典の民」という共通項があります。アラブ・オーソドックスも、ありとあらゆる方法で教会は自らの隣人であり、また同じ市民であるイスラーム教の人々との生きた対話を交わしてきました。アラブ・オーソドックスの神学者の中には、イスラーム宗教思想との神学的対話の糸口を切り拓いてきた人々もいます。アラブ・オーソドックスのエクレシーアは、中東のアラブ人全体の苦難、パレスチナの悲劇、シリア難民について自分のこととして痛みを共有してきました。

#### b. エキュメニカルからエキュメニスティへ

アラブ・オーソドックスの諸教会は、イスラーム教が7世紀に誕生した際、イスラーム教が広まることについて、自分たちの「解放」につながると歓迎しました。実際には、イスラーム・コミュニティでは、「保護民」(アハル・アル・ジンマ)の身分が与えられました。8世紀以降もイスラーム教信者とアラブ・オーソドックスの信者は文化的、知的な対話を展開しました。イスラーム教哲学、科学、思想と神学上の論議を展開しました。ムハンマドについて、アラブ・オーソドックスは「預言者たちの道を

<sup>39</sup> 『建設的基督論』(久布白直勝 新人 16 卷 11 号 47,48 頁)。

<sup>40</sup> “*The Middle Eastern Churches*” Newsletter No.8 Nov.1982 Arab Christians in Relation to their Muslim Co-Citizens and Neighbours, and other essays MECC Perspectives 1986 p.51; 『中東キリスト教の歴史』(同 68 頁)。

<sup>41</sup> 『平和の神学』1938-1965 (パウル・ティリッヒ 新教出版社 2003 年 98-99 頁)。“*Theology of Peace*” Paul Tillich Westminster John Knox Press 1990。

<sup>42</sup> 『中東キリスト教の歴史』(中東教会協議会 村山盛嗣・小田原盛忠訳 日本基督教団出版局 1993 年 73 頁)。

歩んだ」(サルークフ・フィ・サビール・アル・アンビヤ)と解釈し、イスラーム教教師(スーフイー)たちに大きな影響を与えました。

トルコ近代史が専門の歴史学者新井政美は、「14 世紀中頃にテサロニケ(サロニカ)の主教だったグレゴリオス・パラマスが書き残したところによれば、『トルコ人』たちは、アラブ・オーソドックスを、同じ一神教の仲間、究極的にはイスラームと一致しうる宗教とみなしていた」と認識を示しておられます。「オスマン支配下の社会では、イスラーム教徒とキリスト教徒の「共生」が、当然のこととして実現されていた」と同書の 13 ページでも指摘しています。

### c. 経典の民の「共生」

「超民族的視座」：創造の教理に基づいた超越論的存在に対する精神的、宗教的自意識は世界三大宗教であるユダヤ教、キリスト教、イスラーム教に共通しています。13 世紀末以降、オスマン支配下の社会では、イスラーム教徒と東方キリスト教徒の共生が当然のこととでした。つまり多宗教多言語が当然でした<sup>43</sup>。

たとえば、イスラーム教徒は豚肉を食べないハラール食品について認知度も高まっています。

しかし、『コーラン』(正式な名称『聖クルアーン』)のアル・マーイダ 5 章 6 節には次のように書かれています。「今日すべての佳き物はお前達のため合法とされたり。また経典が授けられし人々の食物もお前達に合法なり。そしてお前達の食物は合法なり」とユダヤ教徒のコーシエルのように厳格ではなく、「経典」である旧約を聖典とするアラブ・オーソドックスの信者が食卓で振る舞う豚肉を食べてもかまわないとします。結婚についても、同じ節では、同じ経典の民同士ならば、宗教が異なっても、たとえば、キリスト教徒の女性とも婚姻することができると認めています。「また信徒たる女性のうち貞節な女達、並びにお前達以前に経典を授けられし人々のうち貞節な女達も、彼女等にその婚資を与えて(正式に)結婚し、私通することや秘密の愛人とするに非ずば、(お前達には合法なり)」と異教徒との結婚も認めています<sup>44</sup>。

ローマ・カトリック教会は、非寛容にも、イスラーム教圏において蹂躪し、モスクを破壊し、その上に教会を建造してきました。そのことをヨハネ・パウロ・二世[1920-2005 ポーランド出身の教皇]は、2000年3月12日、「(十字軍遠征、異端審問などでは)異端に対する敵意を持ち、暴力を用いた。これらカトリック教会の名誉を汚した行いについて謹んで許しを求める」と赦しを請うミサを行いました<sup>45</sup>。

社会学者の村田充八は、「宗教的指導者は、どのような宗教においても、平和や正義を願う為政者や信徒を世界に送り出す努力をすべきである。パレスチナにおいても、ムスリム、イスラーム教徒とユダヤ教徒が共存していた時代があったとされる。それは、おそらく、一つには、当時の宗教的指導者や為政者が、暴力に訴えることを望まず、「対話」をとおして問題を処理し、宗教の真理に聞こうとする態度を貫いたからではないか」と共通項に立ち戻ることを示唆します<sup>46</sup>。

アメリカの詩人イライザ・グリズウォルドは、ジャーナリストとして世界の紛争地をまわり、キリスト教とイスラーム教のふたつの宗教の深いかかわりを記しています。「ムハンマドが自分の村を追い出され、ターイフで石を投げられましたが、黙ってメディナ(マディアーナ)に向かったことも知っています」。ムハンマドの『言行録』によれば、西暦 619 年、メッカの南東 110 キロあまりのところにあるターイフというアラビア半島の山麓の町に旅をしました農民たちは彼を歓迎するどころか、石を投げ

43 『オスマン VS.ヨーロッパ』(新井政美 講談社選書メチエ 2002 年 83 頁)。

44 『聖クルアーン』(イスラム・インターナショナル・パブリケーション 2016 年 317 頁)。

45 『NHK』(2000 年 3 月 13 日午前 6 時半)。

46 『戦争と聖書の平和』(村田充八 晃洋書房 2018 年 201-202 頁)。

つけ、血だらけになった彼を町から追い出したのです。その後、大天使ガブリエル(アラビア語ジブリール)が預言者ムハンマドのもとに現れて、ターイフに報復したいかどうか尋ねます。預言者は、顔の血を払いながら、『主よ、あの人たちを許したまえ。彼らは知らないのだから』と祈り、報復を断りました。ムハンマドはイエスとその教えを知っていて、自分が死ぬ前に、イエスのように信仰のためなら喜んで死んでいくように信奉者に指示しました。ムハンマドの言葉は、十字架にかけられたイエスの『父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか分からないのです』という嘆願とまったく同じです」と<sup>47</sup>。

### <結論>

アメリカの宣教師が中東に伝道、異文化交流、難民支縁などでやって来ます。しかし、潤沢な経済的援助が喉から手が出るほどほしい中東のイスラーム社会に「受縁力」はありません。今回、トルコ訪問を通じて、「カヨ子基金」の孤児のためのボランティアに対する歓迎は想像を超えたもてなしでした。圧倒的にイスラーム教圏でありながら、トルコは宗教多元主義を貫いています。

パレスチナ問題、アメリカ合衆国大使館のエルサレム遷都、シリア難民問題など一触即発の危機をはらむ地域で果たす宗教の役割は大きいと実感しました。イスラーム教、ユダヤ教、キリスト教の經典の民同士がいがみあうことをやめて、同じテーブルにつき、「共生」していくように、日本は仲介の労をとれるのではと糸口が見出されました。政治家ではなく、民間外交を通じて、働きかけることにより、和解へと歩めるでしょう。とりわけ子どもたちの世界には損得の打算、戦略、狡猾な駆け引きはありません。孤児支縁のはたらきは不信の壁を取り除きます。2000年間にわたるアラブ・オーソドックスの智慧が必須です。2021年1月23日、イスラーム教の宣教師、ユダヤ教のラビと鼎談をすることを帰国後取り決めました。かたつむりのように、少しずつ、歩み出します。

「彼らはその剣を鋤に その槍を鎌に打ち直す。国は国に向かって剣を上げず もはや戦いを学ぶことはない」(ミカ 4:3)。

「まことに、見よ、草のように彼はその地から萌え出る。彼の麗しさは花のように咲く。(だが)彼の風が吹きつけると、その根元は枯れる。……慈愛にふさわしく、あなたがたの魂を。命に至る道をあなたがたは探究しなさい」と死海文書の「知恵文書」は語ります<sup>48</sup>。限りある人生において、他者と共存していく道を探究していきましょう。

説教原稿を神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について訂正していただきました事務局の翻訳家徳留由美氏、佐々木美和氏、土手ゆき子氏、三好直美氏にも感謝します。

<sup>47</sup> 『北緯10度線』—キリスト教とイスラームの「断層」—(イライザ・グリズウォルド 白須英子訳[岩村が改編] 白水社 2011年 36頁)。  
“*The Tenth Parallel*” Dispatches from the Fault Line Between Christianity and Islam Eliza Griswold Straus & Giroux, LLC 2010。

<sup>48</sup> 『死海文書 X 知恵文書』(同 181-182頁)。